

“片倉の精神を永遠に伝えん” ～片倉鉄砲隊とその足跡～



第16回白石市生涯学習フェスティバル事業
「片倉鉄砲隊による火縄銃演武と甲冑の試着（11月2日）」



慶長7（1602）年、白石城主としてこの地に入った片倉小十郎景綱。以来、260年余りにわたって、白石地方は片倉公の支配の下、城下町としての体裁を整えながら発展を遂げてきました。幕藩体制における一国一城制度下でも、例外的に二城の存続が認められ、また、参勤交代でも「伊達の活火縄」として、火縄銃の火縄に火をつけたまま江戸に入ることを許されていた仙台藩。片倉家はその重鎮として、政宗公以来代々、軍事部門で重責を担ってきました。当時の資料からは、1万8千石の片倉家が、鉄砲や兵員な



どの数から8万石に相当する軍役を担っていたことが伺えます。片倉領内では火縄銃の生産が行われ、貴重な技が代々受け継がれてきました。現在でも芝辻家や岡家など、かつての鉄砲職人の子孫が市内に居住しています。明治維新が訪れ、白石城が「権力の象徴」から「市民のアイデンティティ」へと役割を変えた中、片倉鉄砲隊（正式名称・宮城県古式鉄砲研究会、平成14年に片倉家16代当主の重信公から「片倉鉄砲隊」を名乗ることを許される）では、仙台藩に伝わる砲術「不易流」の伝承・保存と、市民への伝統文化の普及を目的に、白石市民春まつりなどで火縄銃の演武を行っています。市民と共に歩み続ける片倉鉄砲隊。隊の活動を、今後もぜひ応援してください。



このページに掲載した写真は、11月2日に行われた第16回白石市生涯学習フェスティバル事業「片倉鉄砲隊による火縄銃演武と甲冑の試着」で撮影したものです。

- ①一斉に火縄銃を構える隊員たち。迫力満点！
- ②鋭い表情で狙いを定める隊員
- ③轟音と共に火を噴く火縄銃
- ④甲冑の試着も行った甲冑工房「片倉塾」の皆さん



心を貫く火縄の轟音、市民と共に 片倉1万8千石の誇りと伝統を守り抜く



片倉鉄砲隊 隊長
大宮 宗雄さん

白石市民春まつりの舞台などで演武を行うと、「片倉公の思いを火縄銃で表現しているのだな」と、私自身がその役割の大きさに身を引き締められます。これからも、伝統の砲術を後世に伝えていくため頑張ります。イベントのある際は、ぜひお越しください。



前進！白石 市民の未来のために

10月26日、任期満了に伴う白石市長選挙が電子投票で実施され、即日開票の結果、現職の風間市長が再選を果たしました。
11月14日に第15代白石市長に就任した風間市長の、市民の皆さまへのメッセージをお伝えします。

▲11月14日に初登庁した風間市長

私は、このたびの市長選挙において市民の皆さまの信任をいただき、再度市政を担当させていただくことになりました。
4年間の行政経験を生かし、行政が持つ善いところを伸ばしながら、民間のアイデアや発想を加味した「共汗・共学・共生」を基本理念として、次のまちづくりを念頭に、健全で公正に市政を運営していきます。

安心して子育てできるまちづくり

現在、全国的に少子高齢化が進み、本市においても例外ではありません。しかし、子どもたちは地域の宝であり、まち中に子どもたちの笑い声があふれる、そんなまちにしたいと考えています。そのために、一つ目の政策として子どもを生み、育てやすい環境をつくるとともに、高齢者の方には生きがい支援や、一人暮らしの安全対策を強化するなど、すべての市民が生きがいを持って楽しく暮らせる「しあわせあふれるやさしいまち」を実現します。

共に支え合う活気ある地域（まち）づくり

本市には、白石城を中心とする歴史や宮城蔵王の雄大な大自然、城下町ならではの風情があります。この地域資源と固有の環境を

生かして、二つ目の施策として「ろまんただよう城下町」をつくりたい。

やはり本市のまちづくりの中心は白石城です。その周辺を癒やしの空間として整備することで、観光客の増加を図ります。また、各種スポーツ交流を新たなまちづくりと位置付け、県立高校の統合後には、その敷地や既存の施設を再利用して、歴史ある町並みと調和の取れた施設整備を行います。

夢や希望の持てる次世代のまちづくり

また、地域で受け継がれる伝統行事や祭りを守り、個性ある地域づくりを進め、活気ある地域（まち）づくりを実現します。夢や希望の持てる次世代のまちづくり

終身雇用という時代が過ぎ、都会においては派遣労働でしか職を持つことができない若者たちが、ネットカフェや24時間営業のファーストフード店などで夜を明かす。こんな時代を未来の子どもたちに引き継ぐことはできません。そこで三つ目の施策として、新たに工業団地を造成し、企業の誘致に力を入れるとともに既存企業への支援を行い、雇用の場を確保します。市外からの転入者には定住のための支援を行い、新婚家庭を持たれた皆さんには、家賃を補助する事業を新

しく始めます。また、農作物のブランド化と地域の安全でおいしい作物の地産地消に力を入れ、交流人口を増やし、「いきいきとびゆくまち」を実現します。

市民の安全と安心を確保するため四つめの施策として、公立刈田総合病院を守り、医師会や近隣病院はもちろろん、国・県と連携し、地域医療を確立したネットワークづくりを行います。防災面では、高い確率で発生が予測されている宮城県沖地震に備えて、自主防災組織の活動経費を助成し、安全で安心して暮らせる「しんらいとやすらぎのあるまち」を実現します。

4万人都市の復活に向け、共に歩みましょう

私は、今述べました三つのまちづくりを行い、行政改革による健全財政を堅持しながら、少子高齢化による人口減少に歯止めをかけ、「4万人都市の復活」を目指すためにまい進していきます。私たちが持つ地域の宝に磨きをかけて、ヒト・カネ・モノが動き、にぎわいと活力のあるまちを私は創り上げていく決意です。市民の未来のために、一人ひとりが原動力になり、白石を前進させましょう。一層のご支援とご協力をお願いします。